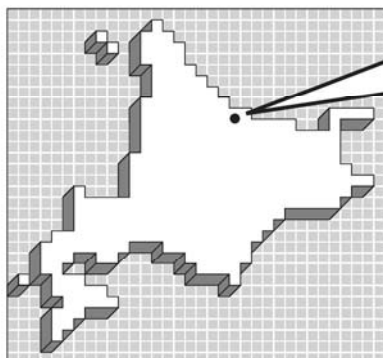


## 連載 わがマチの自慢 No.18



## 紋別市

農林水産業を基盤に誰もが豊かに暮らせる「共生社会」をめざして



紋別市は、オホーツク海沿岸のほぼ中央に位置する、オホーツク海屈指の港まちである。

海岸線から内陸にかけて徐々に高さを増し、市の西側は南北に連なる北見山地に、南側は東西に起伏する千島山系に囲まれており、市の総土地面積の八割を林野が占めている。海岸線は二八kmに及び、海・山・川・湖に囲まれた美しい自然環境にある。東部にあるコムケ湖は、渡り鳥の中間地となっており、北海道鳥獣保護区・環境緑地保護地区に指定されている。

基幹産業は、ホタテ、サケ・マス、カニ等を中心とする漁業とそれらを原料とする水産加工業および農業、林業

である。また、ガリンコ号による流水観光もよく知られている。

人口は二万二千人余り。JR線はすでに廃止されており、今は、旧紋別駅跡隣の敷地にあるバスターミナルから札幌や旭川、名寄、遠軽方面へバスが運行している。オホーツク紋別空港には東京直行便が一日一往復就航しており、観光振興や人的交流に大きな役割を果たしている。

酪農を基幹とする農業

農耕地は天塩岳に源を発する渚滑川流域、ほぼ中央部の藻鷲（もべつ）川流域、南東の湧別町との境界を流れるシブツナイ川流域などの沢沿

いに広がっている。

農業の基幹は酪農であり、農業産出額の七五%を占めている。乳用雄子牛等を活用した肉用牛を加えると九七%になる。平成二九年度の酪農家戸数は七二戸で、高齢化の進展や後継者不足から近年は年間四戸程度減少している。乳用牛飼養頭数は一〇、三四〇頭で、一戸当たりの平均頭数は一四〇頭を超える。年間の生乳生産量は五四、七七〇トンで、離農などによる戸数の減少を一戸当たりの規模拡大によってカバーし、近年はほぼ五万五千トンを維持している（表1）。家族経営が主体であるが、経営の法人化や複数戸協業法人の設立も見られるようになった。

表1 紋別市酪農の概要

項目	数値	資料
酪農家戸数	72戸	平成29年度市・JA調べ
乳用牛飼養頭数	10,344頭	
1戸当たり頭数	143.7頭/戸	
生乳生産量	54,769t	農林水産省「平成28年市町村別農業産出額（推計）」
農業産出額	875千万円	
うち乳用牛	659千万円	
乳用牛の割合	75%	
うち肉用牛	190千万円	
肉用牛の割合	22%	

地区別にみると、渚滑川沿いの上渚滑地区は過去一〇年程度に投資をして規模拡大が進んでいる一方で、紋別地区は比較的小規模で、一九七〇年代に整備した牛舎で営農を続けている経営も多い。当市でも、担い手や労働力の不足が深刻さを増しており、



フリーストール牛舎（紋別市提供）

市では、哺育・育成牛の預託システムや酪農ヘルパーなど酪農経営支援システムの充実強化や搾乳ロボットなど省力化機械の導入を促して、個々の経営の飼養頭数や生乳生産量の増加を図るなど、高収益な酪農経営の実現をめざしている。

## 支援システムの整備や 省力化技術の導入による 生産基盤の強化

J Aが主体となって、J A管内の三市町村（紋別市、滝上町、西興部村）の公共牧場と連携した広域的な哺育・育成システムが整備されている。牛舎などの施設は道営草地整備事業を使って平成一九年度に着工し、二四年度に竣工、約一、四〇〇頭の収容規模になっている。ちなみにこの施設には地元のカラマツ認証材が使われている。

施設は、J Aが一〇〇%出資する株式会社はまなす牧場が運営している。同社は、J Aが所有する牧野に加えて、



木造の育成牛舎（紋別市提供）

三市町村の五つの公共牧場の指定管理者となっており、夏期間は放牧を行い、生後三日の子牛から二二カ月齢の牛を月齢別にローテーションを組んで一貫して育成している。組合員の住む市町村に関わらず、それぞれの公共牧場に放牧する牛の月齢を定めており、例えば、紋別市の中渚滑牧野

では授精施設などが整備されていることもあって九〜一八カ月齢の育成牛が放牧されている。

また平成二八年度には、上渚滑の立牛地区の酪農家五戸が株式会社牧場を設立し、畜産クラスター関連事業を活用して四六〇頭規模の哺育・育成施設を整備した。自らの後継牛は自らの手で育成したという思いを持つ酪農家の会社で、生後四日から一八カ月齢の構成員の牛を預託している。

飼料の収穫作業等に関しては、機械の共同利用組織やオペレーターや運搬作業を運送・建設業者へ外部委託している組織があるので、市としては、J Aや関係機関などと

密接に連携しながら、こうした組織の完全受託組織化やTMRセンターへの発展等に向けた検討を始めていきたいとしている。

搾乳ロボットの導入については、畜産クラスター関連事業で弾みがつき、これまでに五戸で一〇基導入しており、今後も一〇基程度の導入が見込まれている。

市としても、こうした支援システムの整備や省力化技術の導入等を進めていくため、畜産クラスター関連事業の農家負担（補助残）に対する独自の上置補助を行っているほか、優良な後継牛を安定的に確保するための「性別別精液」購入の助成、子牛の事故率を減らし、健全な高能力牛

を確保するためのワクチン接  
種に対する助成措置を講ずる  
など、紋別酪農を支える多様  
な経営体が維持・発展できる  
ようサポートしている。

### 外国人技能実習生と 市民との交流促進

市内の酪農家では労働力不  
足に直面していることもあり、  
今年の六月一日時点で二二戸  
の酪農家に、ベトナムから五  
二人の技能実習生を受け入れ  
ている。JAが監理団体とな  
り、ベトナムの送出し機関と  
連携し、安定的に実習生を迎  
え入れている。

市内全体でも近年、人口の  
一%を超える三〇〇人ほどの  
外国人技能実習生が居住して

いる。八割以上が水産加工業  
での受け入れであり、国別に  
はベトナム、中国、タイの順  
で(表2)、近年ベトナムや  
タイからの実習生が増えてい  
る。

外国人技能実習生に対して  
は、一部に安価な労働力確保  
と誤解し、その結果、労働関  
係法令の違反や人権侵害等が  
後を絶たない。一方で、対象  
職種の拡大や実習期間の延長  
等制度の拡充に関する強い要  
望もある。このため国は、開  
発途上地域等の経済発展を担  
う「人づくり」に協力するこ  
ういう技能実習制度の趣旨を徹  
底し、管理監督体制を強化す  
るとともに、技能実習生の保  
護等を図るため、「外国人の  
技能実習の適正な実施及び技

表2 紋別市における外国人技能実習生受入状況  
(平成30年6月1日現在) (単位: 社、戸、人)

区 分	受入企業・ 酪農家数	計	受 入 者 数		
			中 国	ベトナム	タイ
総 数	45	305	114	142	49
うち酪農業	21	52	-	52	-

資料: 紋別市役所調べ

能実習生の保護に関する法  
律(技能実習法)を昨年十  
一月に施行した。この法律の  
施行により「外国人技能実習  
機構」が新たに設けられ、監  
理団体は許可制に、実習実施  
者は届け出制に、実習生の



国際交流サロン

個々の技能実習計画は認定制  
になった。また、実習生に対  
する人権侵害行為には禁止規  
定と罰則規定が設けられ、実  
習生の保護措置が強化された。  
紋別市では、市内経済の維  
持・発展に欠かせない存在と  
なった技能実習生を、市民と  
して暖かく迎え入れ、助け合  
い、支え合うことのできる信  
頼関係を築いていこうと、外

国人技能実習生と市民との交流の機会として「ウエルカムパーティー」を平成二九年から開催している。また、実習生がいつでも集い、市民と触れ合い、学ぶことができる交流拠点として、まちなか芸術館に「国際交流サロン」を開設し、専任職員を配置している。民間団体による技能実習生の受入を積極的に支援し、外国人との共生社会の実現をめざしている。

### 障がいを持つ方の就労を支援する「紋別ベジタブルファクトリー」

市は昨年、障がいを持つ方も安心して住み続けられるまちづくりをめざし、障がいを

持つ方の就労の場を確保することを目的として、「紋別ベジタブルファクトリー」を開設した。

ベビリーフをはじめとする葉物野菜を水耕栽培で生産する植物工場で、市が施設を建設し、地元の社会福祉法人紋別市百年記念福祉会に貸し付けして運営を行う、全国的にも類のない「公設民営」の施設となっている。四連棟の鉄骨ハウスで総面積は約二千㎡、年間を通して生産し、約二七トンの収穫を計画している。札幌市の有限会社アド・ワンから栽培技術の指導を受け、生産物も全量同社のブランドで販売、市内の店舗や飲食店にも出回っている。

雇用契約を結んで就労の機

会を提供し、一般就労が難しい方や将来の一般就労に向けて訓練を行う方を支援する就労継続支援A型事業所として、特別支援学校卒業生の就労の場としても位置付けられ、現在一四名の障がいを持つ方が働いている。全国的にはこうした事業所の多くが厳しい経営状況にあるとの報告もあり、



ベジタブルファクトリー（紋別市提供）

今後の安定的・継続的な運営を期待する。

### Sea級グルメ全国大会の開催でまちに賑わいを

紋別市の観光は、「カリンコ号II」による冬季の流氷観光と夏季の釣りクルーズ、花観光などが主体で、年間の観光入込客数は二月と七月にピークがある(図)。近隣町村とも一体となって観光振興に力を入れてくるものの、残念なことに近年は年間入込客数が減少している。

こうした中、みなとオアシス全国協議会が主催し、全国各地の「Sea級グルメ」が一堂に集まる「Sea級グルメ全国大会(第十一回)」が

本年八月二五、二六日の両日、紋別海洋公園で開催される。道内では苫小牧市（第三回）に次ぐ開催となる。また、この大会の開催を記念して、双胴型高速フェリー「ナッチャンWord」による道内六港湾をめぐる北海道一周クルーズも催される。紋別をメイン寄港地とし、大会開催日二日

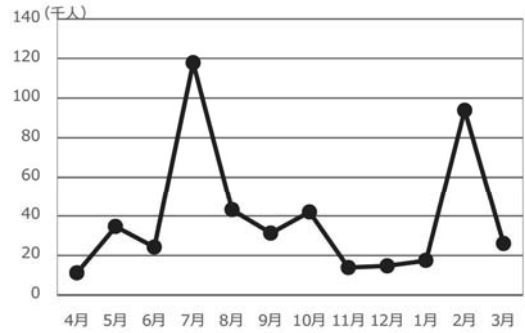


図 紋別市の月別観光入込客数 (平成28年度)  
資料：北海道経済部「北海道観光入込客数調査報告書」

間に亘って紋別に入港する。みなとオアシスは、地域住民の交流や観光の振興を通じて地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われる施設として申請に基づき、国土交通省港湾局長が登録するもの。国土交



カニの爪オブジェ (高さ12m・幅6m)

つくり「ぜひ多くの人に味わってほしい」と自信をもって進めることのできる飲食物のこと。飲食物には何らかの「Sea(海)」の要素を含むことが条件になっている。紋別市からは、オホーツク海の流水の下で育った新鮮な地元産ホタテに野菜を入れ、秘伝の特製ダレと絡めた「ホタ

通省のホームページによると、平成三〇年四月二一日現在、全国で一〇八カ所、うち道内では紋別港を含めて一〇カ所が登録されている。

「Sea級グルメ」は、みなとオアシス登録港の地元産海産物や、港周辺の名産品を用い

「テミス焼うどん」が展覧する。

毎年開催される全国大会には二〇店以上のSea級グルメが出品され、入場者の投票によりその年のナンバーワンが決定する。そのほか、会場ではご当地の特色を活かしたステージイベントを実施するなど、子どもからお年寄りまで多くの来場者に楽しんでもらっており、毎年関係者や観光客で賑わっているという。こうしたイベントの開催が今後の観光入込客数の増加につながるよう、来場者に紋別の魅力を伝える大会にもしたい。

**紋別市発展の礎となった  
二つの産業遺産**

市の中心部から南の丸瀬布



旧上藻別駅通所

方面へ三〇kmほどの山間地にかつて東洋一とも言われた鴻之舞鉱山があり、金や銀を産出していた。開山してから一〇〇年、閉山してから四五、全盛期の従業員数は約四、六

〇〇人、人口は一万四千人に達したという。当時の鴻之舞には、学校や郵便局、駐在所等の官公署をはじめ、病院や大衆浴場、映画館などもあった。国の発展に貢献したこの

まちも昭和四八年の閉山とともに無人のまちとなった。

鴻之舞鉱山から紋別市中心の方へ少し戻ると、国の登録有形文化財に指定されている「旧上藻別駅通所」がある。駅通所は、開拓時代の北海道独自の制度で辺地の交通補助

機関として、人馬の貸し出しや荷物の輸送、宿泊、郵便の業務を行っていた。上藻別駅通所は大正一五年に設置され、鴻之舞鉱山と紋別市街の中継点として、昭和一五年まで業務を行っていた。その後、旅館や住宅として使われていたが、地元の保存会が修復し、現在は開拓時代や鴻之舞鉱山の資料を展示し、公開している。

今回の取材では、日本の近代化や北海道の開拓、紋別市発展の礎となったこうした産業遺産に触れることもできた。

#### 〈取材後記〉

取材に訪れたのは六月初旬。紋別公園には芝桜が咲いていた。今回の表紙には、紋別市

内オホーツク流氷公園にあるオホーツクラベンダー畑の写真を提供していただいた。一万七千株の紫やピンク、白の花が七月下旬から咲き誇り、オホーツク海の碧さを背景に鮮やかな彩りであろう。八月下旬にはSea級グルメ全国大会もある。ぜひ紋別を訪ねてみてください。

◇ ◇ ◇

取材の対応や原稿の確認、写真の提供など、紋別市役所の皆さまに多くのご協力を頂きました。ありがとうございます。

一般社団法人北海道地域農業研究所  
特別研究員 三津橋 真一